

全国医学生対象 医療政策立案プログラム
医療政策クラークシップ2007

Health Policy Clerkship 2007

< 報告書 >



2007年3月12日～23日

共催：東京大学先端科学技術研究センター近藤研究室
特定非営利活動法人 日本医療政策機構

医療政策クラークシップについて

東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授
特定非営利活動法人 日本医療政策機構副代表理事
近藤正晃ジェームス

日本の新たな医療政策を組み立てる人材が求められています。

国民の医療政策に対する関心は高く、あらゆる生活領域の中で医療分野に対する関心が最も高いという調査結果が出ています。その一方で、国民の実に9割以上が現行の医療制度に不安を抱えているとも報告されています。この国民の期待と不安に応え、医療政策の改善と改革に取り組める人材が求められているのです。

医療政策人材の育成が難しいのは、医学と政策の双方に通じることが求められているからです。法学や経済学を学んだ人が医学部に入り直すことは日本では稀です。一方で、医学を学んだ人で、政策の世界に入る人も現時点では限られています。

今回の医療政策クラークシップは、こうした医療政策人材を育成するための一つの試みです。このような機会を通じて、医学生が政策に対する理解と興味を高め、また政策当事者が医学生へ門戸を開くきっかけになれば幸いです。

☆ ☆ ☆

このクラークシップは、中央省庁、メディア、大学、患者会の皆様のご理解と多大なるご尽力で実現することができました。皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のクラークシップ参加者の中から、将来の日本の医療政策を担う人材が誕生することを願ってやみません。

概要

研究内容

テーマ : 脳卒中患者のニーズを汲み取り、医療政策を立案する。

内容 : 20名の脳卒中患者や家族に対し、1人当たり1時間の脳卒中医療に関するインタビューを実施。インタビューから得られた情報を元に患者のニーズを反映させた脳卒中医療を実現する政策を立案し、報告会で医療政策関係者の前で発表する。

スケジュール

- | | | |
|-------------------|---|-----------------------------|
| 3/12(月) | オリエンテーション: 医療政策概論
研修「問題解決手法」 | (マッキンゼー・アンド・カンパニー) |
| 3/13(火) | ヒアリング
ヒアリング
ヒアリング
レクチャー: インタビュースキル | (厚生労働省)
(財務省)
(経済産業省) |
| 3/14(水) | ヒアリング
ヒアリングと見学
グループワーク | (万有製薬)
(日本経済新聞社) |
| 3/15(木) | 患者団体活動参加 | (脳卒中から助かる会) |
| 3/16(金) | 脳卒中患者インタビュー | (泉睦会) |
| 3/19(月)
~20(火) | 班ごとに報告会準備 | |
| 3/22(木) | 班ごとに報告会準備、報告会 | |
| 3/23(金) | 国会見学
ヒアリング
修了式 | (民主党古川元久衆議院議員) |

(敬称略)

ご協力を頂いた皆様

【講師】

- | | |
|-----------|--|
| 安東 元太 | 経済産業省 経済産業政策局 産業構造課 |
| 茶谷 栄治 | 財務省 主計局厚生労働係 企画官 |
| 堤 裕次郎 | マッキンゼー・アンド・カンパニー |
| 内藤 麗 | 万有製薬株式会社 医療制度情報室 政策情報グループ |
| 古川 元久 | 民主党衆議院議員 |
| 前村 聡 | 日本経済新聞社東京本社 社会部 医療班 |
| 三宅 邦明 | 厚生労働省 大臣官房 厚生科学課
(五十音順・敬称略)
※役職は2007年3月当時のものです |
| 黒川 清 | 日本医療政策機構代表理事 |
| 近藤正晃ジェームス | 日本医療政策機構副理事 |

【インタビュー】

泉睦会(脳卒中患者会)

【クラークシップOB】

- | | |
|-------|-----------|
| 川端 亮 | 東京大学医学部6年 |
| 西岡 将基 | 東京大学医学部5年 |
| 後藤 昌也 | 千葉大学医学部4年 |



オリエンテーション

マッキンゼー・アンド・カンパニー
レクチャー



グループワーク



日本経済新聞社見学

患者団体活動参加



報告会



報告会

国会見学



修了式

クラークシップを終えて

東京大学医学部3年中村正樹

今回のクラークシップの最大の収穫は視野の広がりとスキルの向上でした。医療に対する自分なりの問題意識や理念を持つ志の高い医学生が全国から集まると、同じ医学生であるにも関わらず、驚くほど多様な意見が出ました。それぞれの意見の長所短所を考え、それを一つにまとめていくという作業の中で、自分が今までいかに狭い視野のなかで物事を考えていたかを実感できました。

さまざまな外部ヒアリングは更に次元が上の、社会的視点からのものでした。役人の視点、メディアの視点、企業の視点、政治家の視点、そして患者の視点。どの視点も政策策定に欠かせないものですが、それらはしばしば対立します。その中でいかに合意形成を進めていき、最終的に政策につなげるのか、その過程を少しでも体験できたことは本当に有意義でした。

大学での授業では狭い領域での一方通行の情報受信になりがちです。クラークシップに参加したことで、医療は医師と患者のみでは成立せず、医療を取り巻くあらゆるステークホルダーが関わりあうことで成立しているということを改めて確認できました。

もう一つ、スキルの向上という面でもとてもこのクラークシップは有意義なものでした。マッキンゼーの講義では普段あまり意識しないロジカルシンキングを基礎から教えていただき、それがその後の全てに役立ちました。議論で自分の意見を述べる時やプレゼンテーションの流れを考える時に、飛躍のない論理的な思考を常に意識することで、説得力のある分かりやすい説明ができました。

また、政策提言のスライド一枚一枚を作るときには、論理のみでなく視覚的にもわかりやすいか、どのように時間を配分すれば言いたいことを過不足なく伝えられるかを意識することで、効果的に情報を発信する練習になりました。

全国の医学生とも仲良くなれ、クラークシップ後も連絡を取り合っています。皆、大学に戻っても各自で医療を良くするための方法を模索していて、良い刺激になっています。私も自分にできることを少しずつ積み重ねて、より良い医療のために貢献していこうと思います。

今回のクラークシップを支えて下さった多くの方々に心から感謝の意を表してこの文の終わりとさせていただきます。

クラークシップ事後アンケート(参加者コメント)

オリエンテーション:医療政策概論

「短時間で現在の日本の医療、特に患者の不満や医療費問題について、理路整然と説明を頂け、今回のクラークシップ全体への意気込みがぐっとあがった。」

マッキンゼー・アンド・カンパニー ヒアリング

「問題解決の手法やロジカルシンキングは、ビジネスや政策立案においてだけでなく、医師としての臨床における意思決定においても非常に有用であると思った。」

厚生労働省 ヒアリング

「やりがいを感じながら仕事に取り組んでいる医系技官の姿を見ることができたのは有意義だった。」

財務省 ヒアリング

「現状の医療と財務に関わる問題、医療政策の考える解決の方向、その解決策を分かり易く説明していただいた。」

経済産業省 ヒアリング

「経済学の立場から医療を見ているという視点は、これまで考えたことのない視点だったので、興味深い内容だった。」

レクチャー:インタビュースキル

「どのような場面が想定されるのかがわからなかったため、事前にシミュレーションがあったのはとても心強かった。」

万有製薬 ヒアリング

「製薬業界として委員会のようなものが存在し、国への働きかけをしていることも知り、ステークホルダーの一つとして企業の存在を再確認できた。」

日本経済新聞社 ヒアリング

「政策決定におけるマスコミの役割や医療界とマスコミの関係がよくわかって有意義だった。」

患者団体活動参加

「インタビューとはまた異なり、患者会全体の活動が見渡せて、幹部の方のご苦労もわかって大変有益だった。」

患者インタビュー

「実際の患者の現状や今の心情を伺うことができ、これから医師になるものとして非常に有意義な時間となった。」

報告会準備

「それまでのヒアリングやインタビューから得られた情報を統合して、実際に医療政策をグループで考えていく過程は、実践的で大変充実していた。」

報告会

「限られた時間の中で達成すべき目標が明確にあり、その成果を示す場として報告会があって良かった。」

国会議員 ヒアリング

「今までやってきたこと、今後すべきこと、医療政策の意味などが一本につながってビジョンが明確にできた。」

